

「大島養護学校の奄美の文化伝承活動の取組」

1 学校名

鹿児島県立大島養護学校

2 学年・人数

中学部 1 年生～ 3 年生（計 25 人）

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

令和 4 年 9 月 12 日～28 日 総合的な学習の時間（中学部各教室）

(2) 発表の日時・場所

令和 4 年 9 月 30 日 「目指せ！奄美の〇〇名人」発表会
（中学部各教室で映像視聴）

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能，伝統行事，伝統工芸品について

(1) 名称

ア 奄美の音楽（島唄，八月踊り）（しまうた，はちがつおどり）

イ 奄美の染め物（藍染め，ウコン染め）（あいぞめ，うこんぞめ）

ウ 奄美の料理（フルーツ，魚料理）（ふる一つ，さかなりょうり）

(2) 由来

「島唄」とは「しま」の歌のことで，奄美群島で歌われる民謡（奄美民謡）のことである。「しま」とは自らの郷里，帰属地を指し，郷里の民謡を意味する。八月踊りは奄美の集落で旧暦 8 月に稲の収穫を祝って踊られるものである。藍染めは奄美で古来より山に自生する藍を使った藍染めが行われてきた。幕末から明治初期にかけて盛んだったが，最近次第に衰退している。奄美のフルーツや魚も昔から伝統的に収穫され，食されてきた。

(3) 構成等

島唄は三線の音色とチヂンという太鼓に合わせてグインと言われるこぶしとファルセットを多用する独特の歌唱法を特徴とした唄である。八月踊りは集落の男女が輪になって掛け合いながら踊る。藍染めは 8 月頃収穫した藍を 2 日ほど水に浸け，引き上げた後，焼いたサンゴを入れて混ぜ，染料を作り，染めていた。奄美で収穫できるフルーツはパッションフルーツ，島バナナなどで，魚はハージン，ウンギヤルマツなど種類が豊富である。

5 保存会や地域との連携の具体

感染症対策のため，直接交流や指導はできなかったが，音楽グループでは唄の指導者に事前インタビューし，島唄や踊りの心得を伺い，学校で映像視聴した。染め物グループでは，4 年前まで，染め物名人に染め方の指導を直接受けていたが，感染症対策のため，ここ数年は前年度担当の教師から今年度担当の教師が染め方を習い，生徒に指導している。料理グループでは学校近くの魚屋さんを訪問し奄美特有の魚の名称や調理法を教えていただいた。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

感染症対策のため、今年度も直接の交流は控えていたが、事前に唄者の方にインタビューし、映像交流したり、近くの魚屋さんが訪問を受け入れてくださったりして、取り組むことができた。近くの魚屋さんへの訪問は、今年度からの取り組みで生徒も意欲的に活動することができた。

7 取組の様子



藍染めの様子



三線の練習の様子



魚屋さんへの訪問の様子

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

【3年生生徒】

三線を弾くのが難しかったです。後から気持ちが変わりました。三線は楽しいんだなと思いました。

【教職員】

今年も、感染症対策のため、直接的な交流をもつことは難しかったが、事前にインタビューをお願いしたり、魚屋さんへの訪問をしたり、工夫して奄美の文化を学ぶことができた。生徒は3年間で3コースすべてを学ぶので、伝統文化を受け継ぐ良い学習の機会になっていると考えられる。

【地域の方から】

① 唄者の方から

島唄は奄美の大切な宝物です。ぜひ、みなさんにも、島唄をいっしょに聴いたり、歌ったり、踊ったりして、楽しんでほしいと思っています。何よりも、まず、島唄を好きになることです。島唄を通してこころの学びをしてほしい。そして、優しい人になってほしい。来年度以降は、直接交流して、伝統文化を伝えられたらいいと思う。

② 魚屋さんの方から

奄美のおいしい魚をたくさん食べて、元気に育ってください。また、遊びに来てください。